

バス路線の評価について

地域住民の日常生活の移動手段の確保のため、不採算バス路線を補助して維持しているが、利用者の減少や維持コスト増大など課題も生じています。

このため、定期的に路線の評価・検証を行うことで、地域にニーズや利用実態にあった運行となるように改善を図ってゆく必要があります。

路線の評価、検証する項目やその方法については既にこれまでの会議においてお示しをしております。

これから策定しようとしている指針では、それらの項目の適切性、評価の容易性・可否性並びに具体的なとらえ方などについて整理し、継続的な評価を可能としてまいりたいと考えております。地域公共交通網形成計画に示された評価指標及び従来から考えられている指標を以下に示します。

1 定量的な評価の項目と指標

(1) 路線の収支率

(2) 路線の妥当性をチェックするため、1便当り利用者数

(3) バス停から半径500m内の人口を当該路線全バス停の日利用者で集計した人数

(4) 区分道路上の停留所ごとの日利用者数（今回提案する項目）

- ・基幹バス路線は、収支率、1便当り利用者数を指標として評価する。
- ・地域交通路線は、収支率、1便当り利用者数に加え利用率を指標として評価する。
- ・地域交通路線は2つの指標に加え、沿線住民等に多く利用されていることを評価する

項目	基幹バス路線	地域交通路線	
		支線交通路線	生活交通路線
収支率	50%以上	50%以上	25%以上
1便当り利用者数	15~20人/便	15~20人/便	1~3人/便
利用率	—	1.0%以上	1.0%以上

2 定性的な評価項目と指標

(1) 地域住民としての必要性

(ア) 事業者の当該路線維持・確保の意思・・・事業者として沿線住民の移動性の確保をどう考えているか。

(イ) 利用者数推移・・・1便当り利用者数が増加傾向にあるかどうか。

(ウ) 利用率推移・・・利用率が増加傾向にあるかどうか。

※地域住民が減少傾向にある地域は、利用者数を維持していれば増加と同等とみなす。

(エ) 生活交通の場合

地域のバスを支える意思・・・運行維持への地域の取り組みがあるかどうか

(2) 行政としての必要性

(ア) 公共交通ネット枠上の重要性・・・公共交通ネット枠上必要な路線かどうか

- (イ) 路線廃止の市施設への営業の有無・・・路線廃止した場合、他の市施策上影響があるか。
- (3) サービス水準の適切性
 - (ア) 生活に必要な施設へのアクセス性安全な運行がされているか・・・通勤・通学、買い物、通院など生活に必要な施設にアクセス可能か（乗継も含め）
 - 施設が所在するだけでなくバス利用者に活用されているか
 - (イ) 安全性・快適性等利用者の利便性・・・安全な運行がなされているか。運行ダイヤは適切か。

これらの指標の中から、さらに適切性や客観的評価の可能性などを検討し、評価指標を定めます。

これに伴い、網形成計画に記載してある評価・見直しの内容についても修正をして参ります。